

質問日	令和2年3月11日(水)		質問方式	分割方式			
質問順位	5	会派名	自由民主党浜松	議席番号	18	氏名	鈴木幹夫
表題	質問内容						答弁者の職名
1 不登校やひきこもり対策としての早期支援について	<p>近年では家族形成や地域と家庭のかかわり、人と人との関係性のあり方などが大きく変化する中で、日常生活に不安や問題を抱える青少年がふえ、中でも小・中学校での不登校児童・生徒の増加は深刻な状況にある。不登校はその後ひきこもりに発展する可能性があり、さらには8050問題にもつながる日本社会全体の大きな課題である。また、発達障害を伴う事例も多く、早期に手を差し伸べ、丁寧に寄り添うことが解消につながる。</p> <p>そこで、以下の2点について伺う。</p> <p>(1) 不登校の問題では、いわゆる小1プロブレムに端を発しているケースもある。また、幼児教育においても義務教育と同じく「主体的・対話的で深い学び」が重視され、人間関係能力を育み、自分らしさを大切にする子の育成を目標に取り組んでいる。こういった現状を踏まえ、幼児教育・保育の質の維持・向上のための手だてと、義務教育にスムーズにつなぐため保幼小の連携と研修を深めていくための手だてについて伺う。</p> <p>(2) 本市が実施している青少年支援体験活動事業は、不登校やひきこもりの青少年に対して社会生活に適応していく機会を提供し、早期支援の手だてとなる有意義な事業として推進してほしいと考えている。そこで、本事業の実績の推移及び成果、さらに今後の事業の展開について伺う。</p>						金原こども家庭部長
2 新学習指導要領に準拠した本市の教育の重要施策について	<p>新学習指導要領では、情報化、グローバル化の加速度的進展や人工知能(AI)の飛躍的進化など予測困難な時代にあっても、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に子供たちに育成するとうたっている。</p> <p>急激な社会環境等の変化により、将来に向けて希望あふれる夢を描くことができず、自己肯定感を持っていない子供が増加していることや、コミュニケーション能力の不足が指摘されている。そうした状況を踏まえ、さきに質問した不登校やひきこもりの問題とも関連させて、以下の3点について伺う。</p> <p>(1) ICTを活用した教育について</p> <p>(1) 国から、1人1台の端末や高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するGIGAスクール構想が示され、教育の情報化を取り巻く状況は急速な動きを見せている。昨年10月にデジタルファースト宣言した本市は、教育分野におけるICT活用をどのように展開していくのかを伺う。</p> <p>ア 教育委員会では平成30年度からタブレット端末活</p>						花井教育長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>(2) キャリア教育について</p> <p>(3) 外国語教育について</p>	<p>用の検証に取り組んでいるが、その結果と効果的な活用に向けた取り組みについて伺う。</p> <p>イ 今年度は小規模校を対象にテレビ会議システムを活用した遠隔合同授業に取り組んでいるが、その成果と課題及び今後の活用展開について伺う。</p> <p>(2) これまでも教育委員会はキャリア教育を教育計画の重点として掲げ、今年度はキャリア教育実践モデル校を選定してキャリア教育の推進に努めている。</p> <p>ア キャリア教育実践モデル校における成果と課題、今後の取り組みについて伺う。</p> <p>イ キャリア教育推進に向けた教員研修について伺う。</p> <p>ウ キャリアパスポートの活用方法について伺う。</p> <p>(3) 新学習指導要領の全面実施に伴い、小学校では初めて教科として外国語を指導し、評価することになるし、中学校の英語科については「聞く・読む・話す・書く」の4技能をバランスよく身につけることが求められる。</p> <p>ア 本市の教員の外国語指導の現状と課題を伺う。</p> <p>イ 授業改善を目指した教員の指導力向上のための手だてを伺う。</p>	
<p>3 小・中学校教員の数や質の確保のために</p>	<p>小・中学校における教員採用選考試験の受験者数は、ピーク時の平成27年度には654人だったが、本年度は559人となり、全国の状況と同じく減少傾向にある。今後も減少傾向に歯どめがかかれば、本市の未来を担う子供たちを育てる教員の数や質を確保していく上で危機的な状況となる。</p> <p>昨年12月には第2回総合教育会議において、職員の人材確保について、市長を初め教育長、教育委員との間で白熱した議論が展開されたと聞いている。</p> <p>そこで、以下の2点について伺う。</p> <p>(1) 今後、受験者にとって受験しやすい環境を整備していくことが必要だと思う。そこで来年度に向けて、受験要件や試験内容について、現在検討している改善内容について伺う。</p> <p>(2) 現在、教員採用選考試験の志願者確保のために、教員ガイダンスの開催や大学訪問などを行っているが、今後、志願者をふやすための方策として、どのようなことを検討しているのか伺う。</p>	<p>花井教育長</p>
<p>4 防災意識の啓発と防災教育について</p>	<p>南海トラフ巨大地震の発生が懸念されていることから、本市は浜松市沿岸域に防潮堤整備事業を進めており、間もなく全ての工事が完了する予定である。さらに馬込川河口に水門を整備する方針が静岡県より示され、その減災効果は大いに期待されている。しかし、それだけで本市の防災・減災対策が完了するものではなく、引き続き子供から年配者までが危機意識を持って、実際の災害</p>	

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>発生時には迅速かつ適切な自助・共助の行動がとれるようにすることが大切である。平成30年12月から浜松市防災学習センターが開設されたが、市民の自助・共助の意識の醸成に資するものかどうか問われるところでもある。</p> <p>また、津波の脅威により遠州灘沿岸部の地域の地価の下落や引っ越しを検討する家庭の増加等もあり、地域住民は先行き不安な気持ちを払拭し切れずにいる中で、この地域に県営野球場やマリンスポーツ施設等を含む遠州灘海浜公園整備計画が進行しており、地域住民は自分たちの生活の向上や地域の活性化に一条の光を見出す思いで大いに期待しているところである。しかし、これも防災上の安心感があってこそのことである。</p> <p>そこで、以下の2点について伺う。</p> <p>(1) ハード面での防災・減災態勢が整っていく中、防災に対する市民への啓発を含めた避難等についてのソフト面での今後の取り組みを伺う。</p> <p>(2) 本市では平成29年度に防災教育のために先進的に浜松市版防災ノートと指導書を作成し、翌30年度から本市全小・中学校でこれを使用した防災教育が始まった。そこで、以下の点について伺う。</p> <p>ア 防災ノートの活用状況を含めたこれまでの防災教育の成果について</p> <p>イ 防災教育の今後の取り組みについて</p>	<p>宮城危機管理 監</p> <p>伊藤学校教育 部長</p>
<p>5 浜松城天守閣展示リニューアルについて</p>	<p>ことは、家康公が浜松城を築城してから450年目の節目の年である。また、元城小学校跡地を発掘調査中で、二の丸、三の丸等にかかわる非常に価値の高い歴史的遺構が出てきていると聞いている。そんな中、本市は浜松城天守閣の展示リニューアルを令和2年度に計画していることが新聞でも報道され、本市の観光振興や歴史的、文化的価値の高いアカデミックな都市ブランドを構築することが見込まれ、大変意義のあることと感じている。そこで、天守閣展示リニューアルに向けての背景や目的、リニューアル後の展示のあり方について伺う。</p>	<p>伊藤花みどり 担当部長</p>